

925 Open Symposium

RELIGION AND VIOLENCE

宗教と暴力

K. Kohara 小原克博

Doshisha University 同志社大学

Presenter's Email: katsuhiro@kohara.ac

宗教は暴力を助長しているのだろうか。イラクやアフガニスタンなどの状況は、宗教が暴力やテロを正当化し、また暴力的行為のエネルギー源になっているかのような印象を与える。しかし、短絡的に宗教と暴力を結びつける前に、暴力が引き起こされる原初的狀態を考えてみたい。

太古の昔から現代に至るまで、家族や同族の者を殺害されることが、しばしば暴力の引き金となってきた。死は人間に激情をもたらす。それゆえ、死者を弔い、死によって引き起こされる様々な感情を静めることが大切な儀礼とされてきたのである。

考古学的には、十万年ほど前から、人類の祖先がすでに死に関係するシンボリズム（象徴）を使っていたことがわかっている。同じ時期、葬送の意味を持った埋葬も始まっている。ヒトに特有の宗教儀礼は、ヒトと他の生物種を分ける貴重な分岐点を提供している。近年、チンパンジーにも死に瀕した仲間や、仲間の遺体に対する特別な行動があることが観察されており、ヒトの固有性は明確でなくなりつつあるが、歴史的に培われてきたヒトの宗教感情は暴力の起源と展開を考える際のヒントになるはずである。死にまつわる諸感情を鎮静させることもできれば、反対に、それを煽り、暴力を誘発させることもできる宗教（そしてヒト）の両義性について理解を深めていきたい。